+博論書式 3(論博書式 3)

平成 28 年　1 月　19 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分　　野	理学療法学分野
学籍番号	13S3014	院生氏名	及川　真人
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論　文　題　目	都市部在住脳卒中片麻痺者の生活空間に影響を及ぼす要因		
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格		

＜審査結果の要旨＞

１．研究の概要

本研究は、都市部に在住する脳卒中片麻痺者の生活空間における広狭を判別する因子を明らかにしようとするものである。対象は東京都 23 区内に在住し、発症から 180 日以上経過している脳卒中片麻痺者 115 名である。この対象者を Life-space Assessment(LSA)によって広範囲活動群と狭範囲活動群に分け、その基本情報、身体機能評価を比較、有意差が認められた変数を独立変数としたロジスティック回帰分析を行った。その際、有意差のあった全独立変数を投入するものをモデル 1、10m 歩行時間および 6 分間歩行(6MD)を独立変数除外したものをモデル 2 とした.また,判別因子については ROC 曲線からカットオフ値を算出した.分析の結果、モデル 1 では 6MD、モデル 2 では 30 秒立ち上がりテスト(CS-30)、Berg balance scale(BBS)が判別因子となった。カットオフ値は 6MD が 213.5m、CS-30 が 7.5 回、BBS が 44.5 点であった。この結果から、脳卒中片麻痺者の生活空間の広狭は、歩行パフォーマンスおよびバランス能力から判断可能であることが示されている。

本研究の新規性は、パフォーマンス評価を生活空間判別の一つの指標と考え、リハのアプローチや生活指導に活かすことが可能だという点にある。また、今後、地域ごとの違いなど新しい展開につなげられる可能性を持った試みであることを評価したい。本研究は倫理委員会の審査を経て行われており、その倫理的配慮に問題はなかった。

２．審査経過

審査会は 2 回開催した（平成 27 年 11 月 26 日、平成 28 年 1 月 6 日)。初回審査で、審査対象となる主論文とそれ以外の研究のバランスに大きな偏りが見られたこと、ロジスティック回帰のモデルの構成に問題があるとされたことで、再解析を含む大幅な修正が求められた。二回目の審査では他の研究からのつながりが修正され、新たな解析と解釈によって論文の目的にかなった構成となった。後日、二回目の審査で指摘された細かい部分の修正も行われ、最終的な論文の完成に至った。

３．口頭試問においては適切な応答がみられた。

以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（保健医療学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主　査　　谷　浩明
	副　査　　竹内　孝仁
	副　査　　藤田　郁代